時の學者 Marquart, Ramstedt 氏等も皆之に依據すれども、Schlegel 氏の記せる所は一小部分の推測の外は、全く圖書集成邊裔典回紇部彙考の記事に依りたるに過ぎず、然も邊裔典の記事は、少くとも回紇部彙考に於ては、其の採錄の不用意の爲に、年代の排列及び事實の關連等の點に於て、兩唐書の原意を失せるもの少からず、既に兩唐書の載する所が信憑し難き點多かるに、更に其の義を失へる所少からざる邊裔典に據りたる論述の取るに足らざるは云ふ迄も無き事なりとす、余が此の一篇の研究に從事したるは、かかる不備の點に付き其の一端を充たさんとしたるが爲にして、從つて煩雜なる考證を以て始終し、特に各事實の年代を定むることに意を用ひたり、而して其の論述の方法は各君長可汗の一代若しくは數代を以て章を分ち、各章の初に於て（若しくは便宜に從ひ後に於て）其の在世年代を定め、次で其の治世中に生じたる事實の研究に入れり、此る方法が唐代に於る回鶻の盛衰を敍するに當り、必ずしも適當ならざるは余の知悉する所なりと雖、然も尙此の方法を採りたるは、誤謬と矛盾との極めて多き回鶻傳に基づき、之が考證に依りて當面の目的を達せんとするに當りては、先づ其の君長可汗の順位と在世時代とより始むべく、而してかくする時は、勢論及せざる可らざる其の治世中の事實を直ちに之に關聯せしめて論述するを以て便利となすと考へたればなり。

近時塞外諸國に關する史料の蒐集は漸く多きを加へんとするが如くなれば、茲に述ぶる所も自ら更改增補を加ふべき日の至ること遠きに非るべし、只だ此の一篇、現存史料の上より考察して大過無きを得ば幸なり。